

岬町番川河口で見つかった汽水性紅藻 3 種

和田太一¹・山田浩二²・藤本龍之介²

はじめに

大阪府泉南郡岬町の番川河口で汽水性の紅藻 3 種、アヤギヌ *Caloglossa continua* (Okamura) King & Puttock, 1994、ホソアヤギヌ *Caloglossa ogasawaraensis* Okamura, 1897、タニコケモドキ *Bostrychia simpliciuscula* Harvey ex J. Agardh, 1863 が生育しているのを確認した。3 種は汽水域の潮間帯という特異な環境に生育する藻類で、大阪府および大阪湾での記録がごく少なく、生物多様性保全上貴重な発見であるためここに報告する。

発見時の状況

2025 年 11 月 13 日に大阪府泉南郡岬町の番川河口で生物調査を行っている際に、河口部の右岸側に形成されたヨシ原において、ヨシの茎の基部やその周辺の地表を覆うように紅藻類が群生しているのを確認した(図 1)。採集して調べたところ、汽水性の紅藻であるアヤギヌ、ホソアヤギヌ、タニコケモドキの 3 種が含まれていた(図 2)。採集したサンプルはおしば標本および 80%エタノール水溶液の液浸標本にして貝塚市立自然遊学館(KCMN)に保管されている。



図 1. 紅藻 3 種の生育状況

アヤギヌ (コノハノリ科)

Caloglossa continua (Okamura) King & Puttock, 1994

環境省：準絶滅危惧 大阪府：準絶滅危惧 大阪湾
ウエルカムリスト：A ランク

(登録番号 KCMN-P1-9197)

藻体は赤紫色で、野外では褐色や緑っぽく見えることもある。枝は扁平で、本報告の 3 種の中では最も幅が広く 1~2 mm 程度、叉状様に分枝する(図 2a, 3)。本種は汽水域の潮間帯でヨシの茎の基部や流木、護岸などにパッチ状の群落を形成する。番川河口ではヨシの茎の基部に付着したホソアヤギヌやタニコケモドキの群落と一緒に付着して生育しているものが見つかり、3 種の中では最も少なかった。

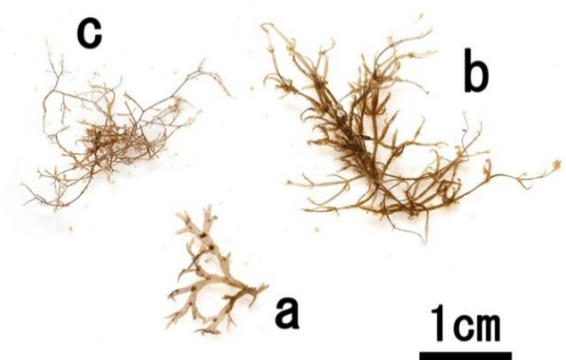


図 2. 汽水性紅藻 3 種 (a アヤギヌ、
b ホソアヤギヌ、c タニコケモドキ)

大阪府および大阪湾では大阪湾生き物一斉調査で泉大津市大津川河口と泉南郡岬町落合川（＝東川河口）での記録があり（石田ほか，2014；山西ほか，2022；大阪湾環境再生連絡会，2025）、落合川では筆者も2017年5月24日に汽水域のコンクリート護岸に付着しているものを観察・撮影している。さらに大阪市の淀川汽水域では淀川左岸線延伸部の環境影響評価の調査で平成25年（2013年）に生育が確認されている（大阪府・大阪市，2016）。番川河口は大阪府で4か所目の産地となる。



図3. アヤギヌ

ホソアヤギヌ（コノハノリ科）

Caloglossa ogasawaraensis Okamura, 1997

環境省：準絶滅危惧 大阪府：準絶滅危惧 大阪湾ウェルカムリスト：B ランク

（登録番号 KCMN-P1-9198）

藻体は暗紫色で、野外では褐色や緑色っぽく見えることもある。枝は扁平、幅0.5mm程度でアヤギヌよりも細く、枝は三叉や四叉など多分枝していき、分岐点はよくくびれる（図2b，4）。本種は汽水域の潮間帯でヨシの茎の基部や転石の側面、橋脚や護岸の表面など多様な基質に付着して生育し、マット状に広がって群落を形成する。番川河口ではヨシの根元や周辺の地表を覆うようにマット状の群落を形成していた。



図4. ホソアヤギヌ

大阪府および大阪湾では大阪市の淀川汽水域で1980年代から生育していることが知られており（山西，1988，1990，2007），大阪湾生き物一斉調査では大阪市の神崎川河口（矢倉海岸）、堺市の堺2区堺浜生物共生型護岸（遊海ビーチ）および堺浜自然再生ふれあいビーチ、兵庫県西宮市香櫨園浜から記録されている（大阪湾環境再生連絡会，2025）。これまでは湾奥部での記録しかなく、番川河口は大阪府では5か所目の産地であり、泉南地域では初めての記録となる。

タニコケモドキ（フジマツモ科）

Bostrychia simpliciuscula Harvey ex J. Agardh, 1863

環境省：準絶滅危惧 大阪湾ウェルカムリスト：A ランク

（登録番号 KCMN-P1-9199）

藻体は紫褐色で、野外では干潮時によく乾いた状態だと淡褐色に見えることもある。枝は扁平にならず棒状で、本報告の3種の中では最も細くて直径0.1～0.2mm程度、互生的に分枝する（図2c，5）。汽水域の潮間帯のヨシ原で、ヨシの茎の基部を覆うように群落を形成する。一見ホソアヤ

ギヌ群落と似るが、より厚みがあって団塊状になる。

大阪府では 2014 年発行の大阪府レッドリスト 2014 の選定作業の時点ではまだ情報が無かったためレッドデータ評価が付けられていなかったが、平成 28 年度（2016 年）の大阪湾生き物一斉調査で大阪市の淀川汽水域の十三干潟と海老江干潟で記録されており（山西，2022；大阪湾環境再生連絡会，2025）、これは筆者の和田が講師として現地調査に参加して発見・記録したものであった。さらに淀川では淀川左岸線延伸部の環境影響評価の調査で平成 25・26 年（2013・2014 年）



図 5. タニコケモドキ

にも生育が確認されていた（大阪府・大阪市，2016）。大阪府および大阪湾では淀川以外での記録は無く、番川河口は今回の発見が大阪府および大阪湾で 2 カ所目の産地であり、泉南地域では初めての記録となる。

保全上の留意点

本報告の紅藻 3 種は汽水域の潮間帯という塩分の変化が大きい特異な環境に生育する。環境省第 5 次レッドリストおよび大阪府レッドリスト 2014 で準絶滅危惧と評価されており、生育環境の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性がある藻類である（環境省，2025；大阪生物多様性保全ネットワーク編，2014）。また大阪湾ウェルカムリストで A ランク（大阪湾内では近年の記録が無いが、記録がごく限られていて、生育・生息基盤が脆弱であると考えられる種）および B ランク（大阪湾内では産地が限られていて、今後分布の拡大が期待される種）にも選定されており、大阪湾の環境再生の指標としても注目される藻類である（山西ほか，2022）。しかしながら 3 種はどれも小さく地味で、遠目から見るとヨシの茎に茶色い汚れや泥が付着しているだけのようにも見え、その存在を知っている者でなければこれが特異な紅藻だとは気が付かないであろう。大阪府および大阪湾の河口干潟では大阪湾生き物一斉調査などで精力的な生物調査が行われてきているが、これまでに 3 種の記録は少なく、ホソアヤギヌとタニコケモドキは泉南地域では本報告の番川河口が初めての記録となった。大阪府および大阪湾ではいまだ調査不足であると考えられ、他の河川でも意識して探せば新たな生育地が見つかる可能性がある。

番川では今回は河口部のみの調査であったため、今後汽水域全体でさらなる分布調査を行う必要があるが、紅藻 3 種はヨシ原でヨシの茎の基部に付着するように群落を形成しており、ヨシ原以外の干出部には見られなかったことから生育にはヨシ原の存在が重要である可能性がある。番川河口のヨシ原は河口から約 80m 上流までの右岸側の限られた範囲にだけ形成されており、川幅も狭いことから、河口部で重機などを使用した工事が行われた場合には生育地のヨシ原に影響が及ぶことが予想される。

おわりに

大阪府による番川水系河川整備計画では、「番川では、多くの水生生物等が生息しており、生物多様性に寄与する良好な自然環境が残っています。また、瀬や淵などの河川特有の自然環境が残る箇所について、今後の河川管理の際にはそれらの保全を目指します。」とある（大阪府，2019）。今回の発見から番川河口のヨシ原は大阪府および大阪湾で生育地が少ない汽水性紅藻 3 種が同所的に生育する貴重な箇所として認識され、今後の河川整備計画で保全していくことが望まれる。

謝辞

標本の登録についてご協力いただいた藤田 厚氏にお礼申し上げる。なお、本報告の生物調査は船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の助成を受けて行われたものである。

引用文献・参考文献

- 石田 惣・山田浩二・山西良平・和田太一・渡部哲也（2014）大阪府の汽水域・砂浜域の無脊椎動物および藻類相. 自然史研究, 3 (15): 237-271.
- 環境省（2025）第 5 次レッドリスト（植物・菌類）の公表について（お知らせ）.
https://www.env.go.jp/press/press_04578.html
- 大阪府（2019）番川水系河川整備計画. 大阪府. 20pp.
<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/22182/bankawaseibikeikaku.pdf>
- 大阪府・大阪市（2016）第 14 節 植物. In 大阪府・大阪市（編），（仮称）淀川左岸線延伸部環境影響評価書. 大阪府，大阪.
<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120070/kankyohozen/assess/yodogawasagansen.html>（2025 年 12 月 25 日閲覧）
- 大阪生物多様性保全ネットワーク編（2014）大阪府レッドリスト 2014. 大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室みどり推進課，大阪. 48pp.
- 大阪湾環境再生連絡会（2025）大阪湾生き物一斉調査情報公開サイト 全地点・全期間の生き物データリスト. http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/life/upload/life_datalist より（2025 年 12 月 25 日閲覧）
- 山西良平（1988）淀川汽水域の潮間帯生物相. Nature Study, 34 (1): 7-11.
- 山西良平（1990）淀川汽水域の潮間帯生物(続). Nature Study, 36 (3): 29-33.
- 山西良平（2007）不自然の中の自然 淀川汽水域の水辺の生物. Nature Study, 53 (10): 6-9.
- 山西良平・石田 惣・大谷道夫・柏尾 翔・鍋島靖信・渡部哲也（2022）大阪湾における海岸生物のウェルカムリスト作成の取り組み. 地域自然史と保全, 44 (2): 155-164.